

[前提]

- (1) 本サービスは、日本オラクル株式会社（以下「オラクル」という）の提供する Oracle Public Cloud Service、Oracle Database Cloud Service 等（本サービスの申込書および申込請書において Part #により特定されるものをいい、以下総称して「Oracle Cloud Services」という）および当社の提供する Oracle Cloud Services にかかる本サービス独自機能により構成されています。
- (2) Oracle Cloud Services については、サービス利用契約の規定に加え、「ORACLE CLOUD SERVICES AGREEMENT TERMS」に規定の内容が適用されます。
- (3) 契約者がオラクルと「ORACLE CLOUD SERVICES AGREEMENT」（以下「CSA」という）を締結済みであったとしても、本サービスの利用において CSA は適用されないものとします。
- (4) 本サービスにおいて提供される Oracle Cloud Services は、「FUJITSU Hybrid IT Service FJcloud-O DB powered by Oracle® Cloud 料金表」本紙および【別紙 1】FUJITSU Hybrid IT Service FJcloud-O DB powered by Oracle® Cloud ユニットレートにおいて「Part #」により特定されるサービスとし、そのサービス仕様については ORACLE CLOUD SERVICES AGREEMENT TERMS において特定される the Oracle service descriptions（以下「オラクルサービス仕様」という）の内容が適用されるものとします。なお、オラクルサービス仕様の最新版は、以下の URL から参照できます。
<http://www.oracle.com/us/corporate/contracts/paas-iaas-public-cloud-2140609.pdf>
- (5) 契約者は、本サービスを自身の内部業務処理へのみ利用できるものとします。

1. サービス仕様

当社は、以下のサービスを提供します。

(1) データベース・サービス環境

契約者は、本サービス上に Oracle Database を配備（以下「デプロイ」という）および実行することができます。データベース・サービス環境は、オラクルサービス仕様に準じます。本サービスは Oracle Cloud Services として提供されます。

① Oracle Database 環境

契約者は、以下の任意の組合せで Oracle Database 環境をデプロイすることができます。

i. バージョン

以下のいずれかのバージョンをご利用いただくことができます。

- Oracle Database 11gR2
- Oracle Database 12cR1
- Oracle Database 12cR2
- Oracle Database 18c

ii. エディション

以下の4つのエディションからエディションを選択できます。

各エディションに含まれる Oracle Database のオプションは、以下のとおりです。

エディション		SE	EE	EE-HP	EE-EP
ベース製品		Oracle Database Standard Edition	Oracle Database Enterprise Edition		
表領域暗号化※1		○	○	○	○
ネットワーク暗号化※2		○	○	○	○
オプション	Enterprise Edition 標準機能※3 Real Application Testing Management Packs※4	—	○	○	○
	Multitenant※5 Partitioning Advanced Compression Advanced Security Label Security Database Vault OLAP Advanced Analytics Spatial and Graph Management Packs※6	—	—	○	○
	RAC Active Data Guard Database In-Memory	—	—	—	○

※1. 表領域の暗号化

サービス・インスタンス作成後に新規に作成される表領域がすべて暗号化されます。ただし、デプロイ時に以下の表領域は暗号化されません。

バージョン	暗号化されない表領域
Oracle Database 11g	サービス・インスタンス作成時に作成される表領域
Oracle Database 12c Oracle Database 18c	ルート(CDB\$ROOT)、シード(PDB\$SEED)およびデータベースの作成時に作成される PDB の表領域

※2. 本サービスでは、Advanced Encryption Standard (AES)の対称暗号システムを用いて、

Oracle*Net Services トラフィックの機密保護を図っています。

※3. Data Guard、Hybrid Columnar Compression、パラレル処理などが含まれます。

※4. Data Masking and Subsetting Pack、Diagnostics and Tuning Packs が含まれます。

※5. Oracle Database 12c および Oracle Database 18c の機能です。

※6. Database Lifecycle Management Pack、Cloud Management Pack for Oracle Database が含まれます。

iii. シェイプ

OCPU 数 5 種類・メモリ搭載量 2 種類の組み合わせによる以下の 10 種類のシェイプから、選択できます。

1 OCPU は Intel Xeon プロセッサの 1 物理コア相当の CPU 能力を提供します。なお、OCPU は、ハイパースレッドがイネーブルとなっており、Oracle Database からは 2 スレッドあるものとして扱われます。

General Purpose		OC3	OC4	OC5	OC6	OC7
	OCPU 数	1	2	4	8	16
	メモリ(GB)	7.5	15.0	30.0	60.0	120.0
High Memory		OC1M	OC2M	OC3M	OC4M	OC5M
	OCPU 数	1	2	4	8	16
	メモリ(GB)	15.0	30.0	60.0	120.0	240.0

② データベース領域

Oracle Database に割り当てる利用者データ容量を 1GB 単位で提供します。

データベース領域にバックアップを行わない場合は 15GB~2,048GB の範囲で、データベース領域にバックアップを行う場合は 15GB~1,200GB の範囲で割り当てることができます。

③ バックアップ専用領域

データベース領域とは別にバックアップ専用領域を提供します。バックアップ専用領域は、バックアップデータの保存期間に応じて動的に確保されるため、契約者が容量を指定することはできません。バックアップデータの保存期間は任意に変更することができます。(初期設定は 30 日間)

(2) 利用者インターフェース

契約者は本サービスを利用するにあたり、以下の 2 つのインターフェースを利用できます。

① Web インターフェース

本サービスの各種機能をポータルから GUI にて操作することができます。ポータルは、次の 5 つから構成されています。

i. サービス・コンソール

サービス・インスタンスの作成／削除／起動／停止などの管理や、バックアップ／リカバリなどの操作を提供します。

本ポータルは、Oracle Cloud Services が提供するアプリケーション・プログラミング・インターフェース (API) を用いて、当社が開発／提供する機能です。

ii. Oracle Cloud My Service

ポータルの利用ユーザの管理や、リソース使用量の確認／使用量のアラート通知などの設定機能を提供します。

本ポータルは、Oracle Cloud Services として提供される機能です。

iii. Enterprise Manager

データベースの管理機能を提供します。

デプロイした Oracle Database のバージョンにより提供するサービスが異なります。11gR では Enterprise Manager Database Control を提供し、12c および 18c では、Enterprise Manager Database Express を提供します。

本ポータルは、Oracle Cloud Services として提供される機能です。

iv. DBaaS Monitor

データベースとリスナーのモニタリングおよび管理機能を提供します。

本ポータルは、Oracle Cloud Services として提供される機能です。

2018 年 5 月 4 日より、新ポータル SQL Developer Web に変更されました。

v. Oracle Cloud Support

ナレッジの検索／閲覧機能を提供します。

本ポータルは、Oracle Cloud Services として提供される機能です。

② アプリケーション・プログラミング・インターフェース (API)

サービス・インスタンスの作成／削除／起動／停止などの管理や、バックアップ／リカバリなどを行うためのアプリケーション・プログラミング・インターフェース (API) を提供します。

本機能は、Oracle Cloud Services として提供されるアプリケーション・プログラミング・インターフェース (API) を用いて、当社が開発／提供するものです。

(3) 富士通提供機能

本サービスでは、当社が開発／提供する付加機能として以下の機能を提供します。本機能は、前号規定のサービス・コンソールもしくはアプリケーション・プログラミング・インターフェース (API) により利用することができます。各機能毎の利用可能インターフェースについては別表 1 をご参照ください。

① サービス・インスタンスの作成／削除

データベース・サービス環境 (以降、「サービス・インスタンス」という) を任意に作成したり、削除することができます。

② サービス・インスタンスの起動／停止／再起動

作成したサービス・インスタンスを任意に起動、停止、再起動することができます。

③ サービス・インスタンスのスケールアップ／スケールダウン

作成したサービス・インスタンスの OCPU とデータベース格納領域を必要に応じてスケールすることができます。OCPU とデータベース格納領域は、同時または個別に指定することができます。スケール変更時にはサービス・インスタンスの再起動が発生します。

i. OCPU

スケール変更したいシェイプを指定し、スケールアップおよびスケールダウンさせることができます。

ii. データベース格納領域

データベース格納領域は、スケールアップのみが可能です。(スケールアップを行った領域についてはスケールダウンさせることできません。)

スケールアップは、以下の 3 つの選択肢から契約者が任意に選択することができます。

スケールアップの選択肢	内 容
新規ストレージ・ボリュームの追加	新たにサービス・インスタンスにストレージを追加します。契約者は、追加されたストレージにデータファイルを作成し、利用することができます。
データ・ストレージ・ボリュームの拡張	サービス・インスタンス作成時にデータベース用に割り当てられたストレージに対して、容量の拡張を行います。
バックアップ・ストレージ・ボリュームの拡張	サービス・インスタンス作成時にバックアップ用に割り当てられたストレージに対して、容量の拡張を行います。

④ データベースのバックアップ

サービス・インスタンスの作成時にバックアップの取得有無を指定することができます。バックアップの取得は、以下の 3 つの選択肢から契約者が任意で指定することができます。

バックアップ取得に関する選択肢	内 容
クラウド・ストレージとローカルストレージの両方	データベース領域に直近 7 日間のデータベース・バックアップを取得し、バックアップ専用領域に 30 日間のバックアップデータを保持します。
クラウド・ストレージのみ	バックアップ専用領域に直近 30 日間のデータベース・バックアップを取得します。
なし	データベース・バックアップは取得しません。

契約者はサービス・インスタンス作成後に、バックアップの取得時間 (初期設定はランダム) およびバックアップデータの保存期間日数 (初期設定は上記のとおり) を任意に変更することができます。

⑤ データベースのリカバリ

契約者は、データベースが破壊された場合や、特定の環境にデータベースを戻したい場合に、取得したバックアップからリカバリを行うことで、データベースを復元することができます。

契約者は、破壊直前の状態やバックアップが取得された一覧から対象となるデータベースを任意に指定し、リカバリを行うことができます。

⑥ 利用者データの移出入

作成したサービス・インスタンスに対して、以下の機能を提供します。

提供機能	内 容
契約者とのデータ授受機能	契約者と本サービス間でのデータ授受を行うため、 ftps サーバ機能を提供します。契約者は、契約者が別途準備する ftps クライアントアプリケーションを用いて、データの送受信を行うことができます。
SQL*Loader サポート	Oracle Database が提供するデータベース・ユーティリティ SQL*Loader を API にて提供します。
DataPump サポート	Oracle Database が提供するデータベース・ユーティリティ DataPump を API にて提供します。
ファイル圧縮／伸張機能	サービス・インスタンスに格納されたファイルを圧縮(zip)または伸張(unzip)する機能を提供します。 契約者は、 SQL*Loader や DataPump などの入力ファイルをあらかじめ圧縮し、サービス・インスタンスへデータ送信後にファイルを伸張できます。 また、データベース上のデータを取り出す際に DataPump などの出力ファイルを圧縮でき、データ受信時間を短縮できます。

⑦ 簡単サポート機能（調査資料の一括取得）

調査に必要な資料を効果的に取得する機能を提供します。

⑧ 利用者運用支援機能

- ・ 作成したサービス・インスタンスのシステムリソース情報やログを収集・監視します。
- ・ サービス・インスタンスに異常が発生した場合や、システムリソースの閾値を超えた場合に契約者の指定する通知先にメールにてアラート通知を行います。
- ・ 収集したシステムリソース情報とログを、ダウンロードすることができます。
- ・ システムリソースの稼動状況などをグラフ表示にて確認することができます。

⑨ SQL チューニング支援機能

SQL トレースを整形する **tkprof** ユーティリティをサポートします。

⑩ Oracle Database パッチ管理機能

Oracle Database に対して、以下のパッチ管理機能を提供します。

パッチ管理機能	内 容
DB パッチの適用	適用可能な Oracle Database パッチ一覧より、パッチを選択し適用できます。 パッチは、事前に適用確認（プレチェック）を行った後に適用する、または、強制的に適用する、のいずれかを選択できます。
DB パッチのロールバック	DB パッチ適用後に、当該パッチをロールバックすることができます。
DB パッチの適用履歴管理	DB パッチの適用やロールバックなどの実行履歴を管理できます。

⑪ サービス・アップデート機能

本サービスで提供する機能のアップデートおよび不具合修正を Web インターフェースで利用者の任意のタイミングで実施できる機能を提供します。

⑫ 簡単 API 実行機能

本サービスで提供する API をサービス・コンソールより実行することができます。

⑬ アラート通知連携機能

ソフトウェアツールにより、利用者運用支援機能がメールで通知するアラートを抽出し、ログファイルに出力するアラート通知連携機能を提供します。利用者は、当該ソフトウェアツールが出力するログファイル経由

で、他の運用管理ソフトウェアなどと連携することができます。なお、当該ソフトウェアツールは、利用者にて利用者システムに導入する必要があります。

2. 提供リージョン

本サービスは、以下のリージョンで提供されます。

- ・東日本リージョン 1

3. 制限事項・注意事項

- (1) 本サービスでは Data Guard、RAC、Active Data Guard 機能は、機能制限となり利用できません。
- (2) One Node RAC は利用できません。
- (3) データベースのエディションで SE を選択した場合、Oracle Database のリソース（CPU）使用は 16 スレッド（8 OCPU）に制約されます。そのため、OC7 または OC5M を選択されても十分にシェイプを使い切ることはできません。
- (4) 契約者がオラクルが提供する My Oracle Support を使用し発行した SR（サービス・リクエスト）について、当社は一切責任を負いません。
- (5) オラクルから通知される「Standard Developer Service」は本サービスに含まれておらず、当社は契約者による「Standard Developer Service」の利用について、一切責任を負いません。契約者は「Standard Developer Service」についての問い合わせが必要な場合、オラクルに対して行うものとします。
- (6) 契約者は、本サービスを本サービス仕様書に規定される利用者インターフェースでのみ利用するものとし、当社は、それ以外の方法での本サービスの利用について一切責任を負いません。
- (7) 新規申込の際にオラクルより「A VPN account was created for you.」というタイトルのメール案内が通知されますが、本サービスでは、当該メール案内をもとに契約者が構築した VPN での通信はサポートしていません。
- (8) 契約者は本サービスの利用終了後、60 日間はバックアップ専用領域に格納されたバックアップデータに対してアクセスすることができます。なお、本サービスの利用終了の定義は、申込を行うメニューにより異なります。
- (9) オラクルが提供する Enterprise Manager、DBaaS Monitor および SQL Developer Web は自己署名証明書を利用していますが、HTTPS(TLS)仕様として、SSL/TLS 通信暗号化強度が高くない方式を使用することが可能です。そのため、使用するブラウザを最新化し暗号化強度が高い方式に設定のうえ利用してください。
- (10) 富士通が提供する ftps サーバ機能は、自己署名証明書を利用しています。
- (11) サービス・インスタンスへのアクセスは、グローバル IP アドレスを使用します。外部からサービス・インスタンスにアクセスを防ぐため、適切なアクセス許可設定を行ったうえで利用してください。
- (12) 超過使用が発生している場合は、支払が終了するまで利用終了手続きを進められません。
- (13) 本サービスで利用しているソフトウェアにセキュリティ上の重大な脆弱性が発見された場合、該当機能を停止することがあります。

4. その他

- (1) 「ORACLE CLOUD SERVICES AGREEMENT TERMS」において規定される一部の用語については、以下のとおり定義するものとします。

「ORACLE CLOUD SERVICES AGREEMENT TERMS」に規定の用語	本仕様書において該当する用語
Oracle	オラクル
You / Your	契約者
Fujitsu	当社
Order	契約者による本サービスにかかるサービス品目の利用申込みならびに当社の承諾
ordering documentation	本サービスにかかる申込書ならびに本サービスにかかる申込請書

- (2) Oracle と Java は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。文中の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

以 上

別表1 提供機能と利用可能インターフェースについて

提供機能	利用可能インターフェース	
	Web インターフェース (サービス・コンソール)	API
サービス・インスタンスの作成／削除	○	○
サービス・インスタンスの起動／停止／再起動	○	○
サービス・インスタンスのスケールアップ／スケールダウン	○	○
データベースのバックアップ	○	○
データベースのリカバリ	○	○
利用者データの移出入	—	○
簡単サポート機能（調査資料の一括取得）	—	○
利用者運用支援機能	○	○
SQL チューニング支援機能	—	○
Oracle Database パッチ管理機能	○	○
サービス・アップデート機能	○	—
簡単 API 実行機能	○	—

※アラート通知連携機能については、専用のソフトウェアツールを提供します。

以 上

附則（2017年4月20日）

本サービス仕様書は、2017年4月20日から適用されます。

附則（2017年5月15日）

本サービス仕様書は、2017年5月15日から適用されます。

附則（2017年8月1日）

本サービス仕様書は、2017年8月1日から適用されます。

附則（2017年8月18日）

本サービス仕様書は、2017年8月18日から適用されます。

附則（2017年9月1日）

本サービス仕様書は、2017年9月1日から適用されます。

附則（2017年9月28日）

本サービス仕様書は、2017年9月28日から適用されます。

附則（2017年12月4日）

本サービス仕様書は、2017年12月4日から適用されます。

附則（2018年1月26日）

本サービス仕様書は、2018年1月26日から適用されます。

附則（2018年2月1日）

本サービス仕様書は、2018年2月1日から適用されます。

附則（2018年4月19日）

本サービス仕様書は、2018年4月19日から適用されます。

附則（2018年6月1日）

本サービス仕様書は、2018年6月1日から適用されます。

附則（2018年6月22日）

本サービス仕様書は、2018年6月22日から適用されます。

附則（2018年6月29日）

本サービス仕様書は、2018年6月29日から適用されます。

附則（2018年7月9日）

本サービス仕様書は、2018年7月9日から適用されます。

附則（2018年8月2日）

本サービス仕様書は、2018年8月2日から適用されます。

附則（2018年11月22日）

本サービス仕様書は、2018年11月22日から適用されます。

附則（2020年6月11日）

本サービス仕様書は、2020年6月11日から適用されます。

附則（2021年2月15日）

本サービス仕様書は、2021年2月15日から適用されます。